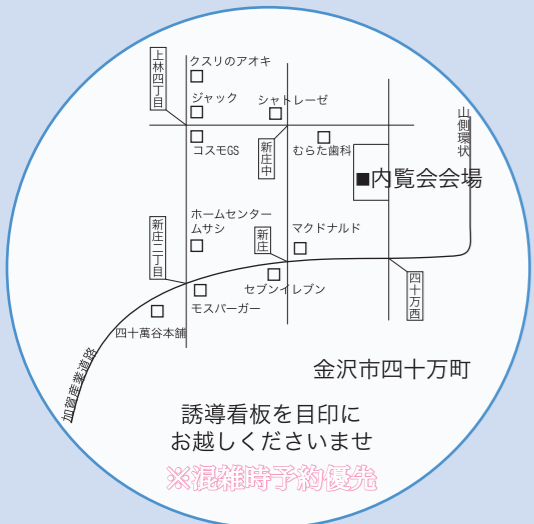


zuiun 新築住宅内覧会 VOL.16

3月10日(土)・11日(日)

10:00~18:00



金沢市四十万町

誘導看板を目印に  
お越しくださいませ

※混雑時予約優先

※道に迷われた方は下記の番号へお電話下さい

tel.076-213-5505

# 今回は平屋です。

次回内覧会予定は3月24・25日(金沢市桜町)

詳しくはHPをご覧ください

www.zuiun.jp

家具から始まる家づくり  
zuiun建築設計事務所

zuiun 新築住宅内覧会 VOL.17

3月24日(土)・25日(日)

10:00~18:00

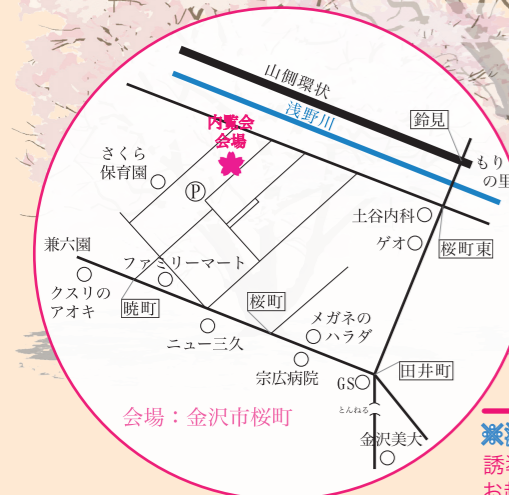
zuiun

詳しくはHPをご覧ください

www.zuiun.jp



# 桜町で内覧会



会場：金沢市桜町

※混雑時予約優先

誘導看板を目印に  
お越しくださいませ

※道に迷われた方は下記の番号へお電話下さい  
tel.076-213-5505

家具から始まる家づくり  
zuiun建築設計事務所

今年の冬もたくさん雪が降り、皆様も連日の雪かきが日課だったのでは  
ないでしょうか。  
私も雪かきをする度に「雪はスキー場にだけ降ればいい」そんなことを思い  
ながら、ひたすら雪かきをしていました。  
しかし、外ではあいかわらず冷たい風が吹いている中、室内では日向で太陽  
の日差しの暖かさを感じる事が出来る時が増えてきました。  
そんな時、筋肉痛ばかりの冬もそろそろ終わり、人も自然も活動を始める春に  
向けての準備期間になったんだなとうれしく思っています。

さて、今回はそんな「自然を感じる家」Ⅱ「土と緑を感じる平屋」をテーマ  
に考えてみたいと思います。

皆さんは「平屋」と聞くとどんなイメージをお持ちですか。

「贅沢」「敷地が広くないと無理」「2階建てに比べて高い」  
家づくりのご相談を受けていると、このようなご意見をよく伺います。  
たしかに、単純に考えれば2階建てで縦に重なっているものが、平屋になる  
と1階部分の面積が2倍になるため、ある程度敷地に余裕があるほうが良いと  
言えます。また、1階が広くなるということは当然基礎や屋根の面積も増  
えるので、その分の工費は高くなります。

しかし、きちんと住む人のライフスタイルを考え、どのような家が必要なの  
かを検討し設計をすることで、ビックリするくらい工費が跳ね上がるとい  
うことはないのです。

床面積を考えると、平屋には上下階の移動がありません。つまり、階段や階段  
ホール、上階の廊下などが無いため、その分の床面積は無くなります。

そして、個室や共有スペースを上下に分けずに色々な空間を兼ねて配置するこ  
とで、2階建てと同じ必要空間を床面積を少なくして確保することも出来ます。

また、予定地の諸条件にもよりますが、敷地に対して縦に階を重ねて敷地に余  
白を残すよりも、1階を広くして敷地に余白を残さないような平屋を計画する  
方がライフスタイルに合った設計が出来る場合もあります。

「家の中心に螺旋階段が欲しい」  
「下階を賃貸にしてビルの最上階に住みたい」

このように、どうしても2階以上が必要と考えている方にはおすすしませんが、  
最初から平屋を除外せずに色々検討してみるのも一つだと思えます。  
なぜなら、平屋には多階の家には無い魅力があるからです。

## 土と緑と家族を近くに

ZUIUN便り Vol.20

まず、なんといっても「地面が近い」ということ。  
すべての部屋が地面と繋がっているという感覚は、想像以上に内と外  
とのつながりを感じることが出来ます。  
それは窓から見える景色の中にそのまま出ていけるということです。  
中庭や、プライベートに配慮した庭などがあれば、そこは季節の変  
化を感じる多目的空間となるはず。

春 暖かな日差しを落とす日向ぼつこの部屋に

夏 夏休みの間、ずっと活躍する子供用プール場に

秋 焼き芋、柿、秋刀魚を食するダイニングキッチンに

冬 イヌと駆けるか、ネコと丸くなるかを迷う分岐点に

また、2階が無いので天井高を気にせず自由に出来ます。  
そのため、天井高を高くすることはもちろん、低い空間もあわせて設計  
することで、空間としてのメリハリや、おもしろさを感じることが出来  
ると思います。

そして、上下階の移動が無いということはワンフロアで家が完結して  
いるということ。  
つまり、家族のみんなが常に同じフロアにいるということであり、  
顔を合わせる機会や、一緒にいる時間は増えるということ。  
当然、家族の会話や一緒に遊ぶ時間が増えることもあるでしょう。  
機嫌が悪くて一人になりたい時もバツパタリ家族に会ってしまうことも  
あるでしょう。

しかしそれは、どんな時でも「家族を近くに感じる環境」ということ  
です。  
これをコミュニケーションが取りやすいと思うか、強いられている  
と思うかはそれぞれ感じ方は違うと思います。

しかし、人々との関係が希薄になつていられると言われる昨今では、  
いつでもケンカ出来るくらい近くに家族がいるというのなかなか良  
いものだと思います。  
もちろん、ケンカと仲直りが同じ数というのが大前提となりますが。